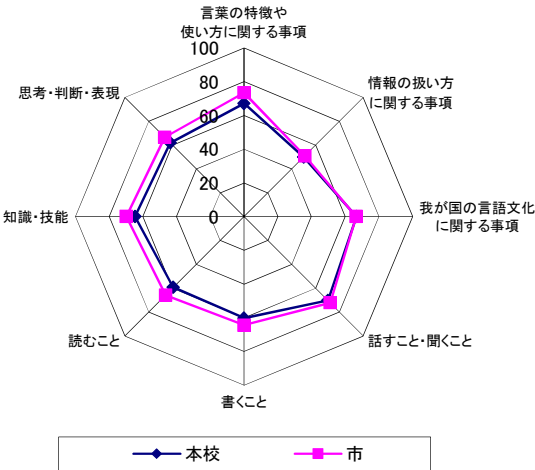


宇都宮市立中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.2	73.5	74.4
	情報の扱い方にに関する事項	50.0	51.0	51.5
	我が国の言語文化にに関する事項	66.7	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	70.4	72.3	73.7
	書くこと	60.2	64.3	66.6
	読むこと	59.3	65.8	64.9
観点別	知識・技能	64.7	69.8	70.8
	思考・判断・表現	61.9	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

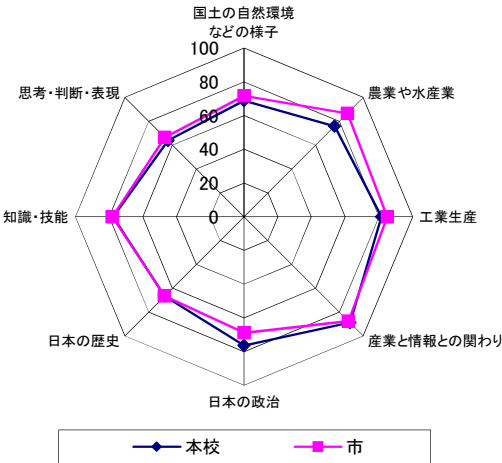
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	○「恩師」と「潮」の読みの問題は、94.4%と高い正答率であった。 ●市の平均正答率より6.3ポイント下回っている。 特に「破れる」の書き取りは、38.9%とかなり低い。 ●敬語の使い方が正しい文を選ぶ問題では、正答率が11.1%とかなり低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の書き取りは、5年生の配当漢字から出題されている。繰り返し復習させることで定着を図っていく必要がある。
情報の扱い方 に関する事項	○説明文を読み、情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の平均正答率を4.9ポイント上回った。 ●市の平均正答率より1.0ポイント下回っている。	・長文やいくつかの資料を読んで、内容を簡潔にまとめる問題が出題されており、読み取りの力や書く力が必要となる。日頃から文章を読んだり書いたりすることに慣れ親しむような課題に取り組ませていきたい。
我が国の言語文化 に関する事項	○市の平均正答率より0.2ポイント上回った。この領域の問題は1問だけとなっていて、和語、漢語、外来語について出題されている。	・和語、漢語、外来語については、由来やその区別について5年生のときに学習している。継続的に復習させ、語句の由来や、和語、漢語、外来語についての調べ学習を通して、興味関心を高めていきたい。
話すこと・聞くこと	○話を聞いて内容を捉える問題では、市の平均正答率を9.2ポイント上回った。 ●市の平均正答率より1.9ポイント下回っている。	・話の内容を的確に捉えることを授業中に意識させ、相手の話をよく聞く習慣を定着させていく。
書くこと	●市の平均正答率より4.1ポイント下回っている。 ●予想される反論とそれに対する意見を文章で書く問題では、校内正答率が38.9%とかなり低く、市の平均正答率を8.2ポイント下回った。	・自分の考えを書く活動を継続して行い、字数や段落を意識して書く力を育てていきたい。 ・国語の学習だけでなく、他の教科の学習でも、振り返り等の機会を使って、順序よく書く力を身に付けさせていきたい。
読むこと	○物語の読み取りと説明文の読み取りを比べると、物語の読み取りの方が正答率が高くなっている。 ●市の平均正答率を6.5ポイント下回っている。	・叙述を基に、登場人物の心情や人物像を想像する力を伸ばしていく。 ・引き続き朝の読書の時間の確保や、教材文と同じジャンルや内容、構成の本を読むなど、物語や説明文を含めて多様な文章に触れる機会を設定していく。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.9	71.6	69.6
	農業や水産業	75.9	86.7	83.7
	工業生産	81.5	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	88.9	87.7	77.4
	日本の政治	76.4	68.9	71.7
	日本の歴史	66.7	66.7	66.3
観点別	知識・技能	77.8	78.0	76.7
	思考・判断・表現	63.9	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

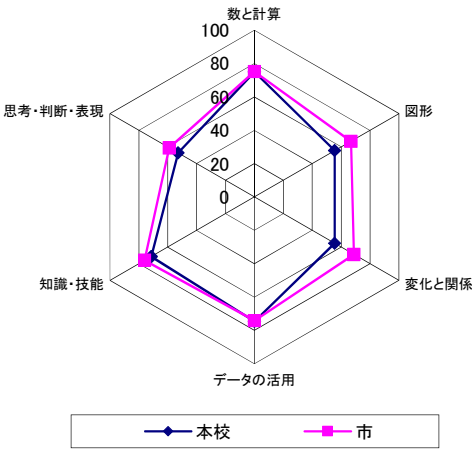
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○「日本の周辺の海洋名」では、1.6ポイントや「主な地形の名称」では、4.8ポイント市の平均正答率を上回った。 ●「林業がかかえる課題」についての問題では、市の平均正答率を7.4ポイント下回った。農業等既習内容を応用することが不十分であった。	・本校は市の中心部にあり、林業に対するイメージがつきにくい可能性がある。そのため、林業が抱える問題を予想できるよう、同じ第一次産業である、農業などの既習内容を関連付けて考えることができるようにしていく。
農業や水産業	○「米の生産の盛んな地域を資料から判断する」問題では、88.9%と高い正答率で、市の平均正答率と同程度だった。 ●「米の生産工程」についての問題では、市の平均正答率を26ポイント下回った。「田おこし」など、米作りに関する名前や米作りの工程の目的の理解が不十分であった。	・「田おこし」「コールドチェーン」など、農業や水産業に関する言葉の意味や目的について理解を深め、データや表、イラストなどの資料を読み取ることができるようにする。また、新聞、ニュース等を活用し、地域の農業、水産業、林業に興味・関心をもてるようにする。
工業生産	○「工業製品の分類」についての問題は、機械工業、化学工業について理解することで、88.9%と高い正答率であった。 ●市の平均正答率を3.5ポイント下回った。イラスト、グラフなどの複数の資料を活用し、文章にまとめる力が不十分であった。	・記述式の問題では、普段の授業で、グラフや図などの資料の活用と読み取りの指導を行っていく。また、記述式の問題に慣れるよう、日頃から自分で考え、分かったことなどを短文にまとめる指導に努める。
産業と情報との関わり	○市の平均正答率より1.2ポイント上回った。また、情報を得る手段と情報の種類の問題では、校内正答率100%と高い正答率であった。	・自分が知りたい情報について、その状況に適している手段（テレビ、インターネット、新聞等）を選ぶことができるようにする。また、SNSの適切な使い方や危険性を理解し、様々な情報の中から正しい情報を選択できるよう、情報活用の仕方を今後も継続して指導していく。
日本の政治	○市の平均正答率を7.5ポイント上回った。特に「国会のはたらき」についての問題では、83.3%と高い正答率であった。	・今後も政治に関する情報を授業の他に、朝の会や帰りの会等で話題にし、日常生活において政治に興味関心をもてるようにしていく。
日本の歴史	○「鉄砲の伝来」や「書院造の特徴」の理解に関する問題では、校内正答率100%と高い正答率であった。 ●市の平均正答率と校内正答率は同じであるが、「古墳時代」に関する問題が市の平均正答率を22.7ポイント下回った。大王など名称に関する理解が不十分であった。	・歴史的建造物や文化など、現在の生活に影響を与えているものを授業や修学旅行、校外学習を通して、興味・関心をもつことができるようにする。また、写真、イラスト、地図などの複数の資料を活用し、その時代の出来事と建造物などを関連づけることができるよう指導していく。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.0	75.1	75.8
	図形	55.6	66.8	68.3
	変化と関係	55.6	68.8	65.0
	データの活用	74.6	74.1	63.6
観点別	知識・技能	71.5	76.1	75.8
	思考・判断・表現	52.8	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

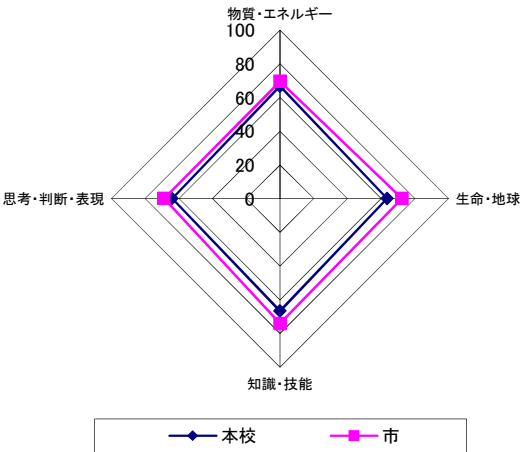
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数のかけ算、わり算の正答率は、88.9%、83.3%で、市の平均正答率をそれぞれ5.2ポイント、2.6ポイント上回った。 ●小数第一位÷小数第一位の計算は、正答率が61.1%、図を見て小数倍の文章題を解くための立式をする問題の正答率が61.1%で、市の平均正答率をそれぞれ5ポイント、8.6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数のかけ算、わり算のしかたについては、その意味を再度復習し、小数点を移動するという手続きの仕方に帰着することを確認して、定着を図る。また、文章題を読み取って数直線に表して、立式に導く学習も授業の中で意図して取り入れることで定着を図るようにする。
図形	○角柱の体積を求める問題の正答率は72.2%で、市の平均正答率を3.1ポイント上回った。 ●直径が与えられた円の面積を求める問題の正答率は66.7%、三角柱の展開図から辺の長さを読み取る問題の正答率は61.1%で、市の平均正答率をそれぞれ18.1ポイント、12.7ポイント下回った。また、三角形の一つの外角を求める問題や合同な三角形を作図する問題の正答率も市の平均正答率がそれぞれ、11.6ポイント、21.6ポイント下回った。	・様々な図形の面積を求める公式を復習し、多くの類似問題を解くことで定着を図る。展開図の見方や三角形の外角の求め方、合同な図形の作図のしかたについても、実際にかいたり測ったりする活動や、学んだ知識をもとに活用する学習を多く取り入れることで定着を図る。
変化と関係	●二人に一人はこの項目全体の正答率が50%以下となっていて、校内正答率は市の平均正答率68.8%を13.2ポイント下回っている。特に、表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるかを考察する問題では、市の平均正答率73.4%を17.8ポイントも下回っている。	・単位量や速さの意味と求め方について、また問題で何を聞かれているかが理解できるよう、各内容の確認と類似問題や文章問題にも多く取り組むことで定着を図る。
データの活用	○項目全体の校内正答率は、市の平均正答率とほぼ同等の74.6%となっている。 ○中央値を求める問題では、校内正答率83.3%と市の平均正答率を7.8ポイント上回った。 ●最頻値を求める問題では、校内正答率72.2%と市の平均正答率を8.4ポイント下回った。	・各項目について値の求め方や表への表し方の基礎や基本を確認し、類似の問題や文章問題に多く取り組むことで更なる定着を図っていく。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.7	69.5	65.2
	生命・地球	63.5	72.3	70.1
観点別	知識・技能	66.7	74.0	70.7
	思考・判断・表現	63.9	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○グラフの読み取りやリトマス紙を利用した色の変化などでは市の正当率より10ポイント以上高かった。 ●平均正答率は、市より2.8ポイント下回った。特に、仮設の結果を推測したり、溶けた食塩やミョウバンを取り出す方法を考えたり、気体を区別する方法を考えたりするなどの思考面で課題が見られた。また、消化管などの知識に関わる理解でも課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・目的を明確にしたうえで実験に取り組み、得られた結果をもとに考察をしたり、それを自分の言葉で表現できるように指導していきたい。 ・実験の基本的な操作方法などの基礎基本が定着するよう具体的な指示を十分に行うようにする。またノートのまとめ方の指導も充実させたい。
生命・地球	○「流れる水のはたらき」や「植物のつくりとはたらき」のようにこれまでの経験と結び付けて考える問題については正答率が高かった。 ●平均正答率は、市より8.8ポイント下回った。特に、消化管の理解のように必要な語句や用語を正しく身に付けることや、「月と太陽」の位置関係による月の満ち欠けの変化などのように関連付けて推測することに課題がある。	・必要な用語を定着させるために繰り返しプリント等で復習する機会を設けたい。 ・身の回りで起こる事象や経験と結び付けて授業を展開するようになりたい。 ・できるだけ実物を観察する機会をできるだけ多く設けて、いくつかの事象を比較させ推測する力を身に付けるように指導していきたい。

宇都宮市立中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	・児童が「知りたい」「解決したい」という探究的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「勉強が好きか。」という問いの肯定割合がほとんどの学年で市の肯定割合を上回った。しかし、学年が上がるにつれて、肯定割合が低くなっていた。 ・「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」という質問の肯定回答は市の平均並みか、それ以上であった。
主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法の工夫	・対話的な学び合いのために学習展開を工夫している。 ・思考力・判断力・表現力を育成するために学習活動を工夫している。 ・学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「グループでの話し合いに自分から進んで参加していますか」の肯定割合は、市の平均と比べると、ほとんどの学年で平均を下回っていた。 ・3、4年生の「ものごとをくまべながら考えている。」と5、6年生の「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」の問いについての肯定割合は市の平均を下回っていた。
基礎的・基本的な学習内容の定着のための工夫	・ねらいを明確にし、分かる授業を展開している。 ・担任と担任以外の教員による朝の学習支援を行ったり、算数の習熟度別授業を行ったりして学習内容の定着を図っている。	(6年生の調査から) ・4教科の基礎問題では、どの教科も市の平均を下回っていた。 ・国語では言葉や言語について、正答率が低くなっていた。算数では、分数の計算問題で正答率がやや高くなっていた。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	・全学年「家庭学習マイプラン」を活用し、毎日の家庭学習の内容や時間を記録させ、自主的に家庭学習に取り組む習慣をつけている。 ・学校が休みの日に「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・宿題の提出に関する問いの肯定割合は、市と比べると低学年は市の平均を上回っているが、中・高学年になると平均を下回っている。また、学年が上がるにつれて低くなっている。 ・「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の質問では、肯定的割合が市の平均を下回っている。学年が上がるにつれて低くなっている。 ・読書量の質問では、低・中学年で市の肯定割合を上回っている。学年が上がるにつれて読書量が減ってきている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

- ・学習に対する取組について、児童の学習意欲について課題が見られる。どの学年も「勉強をしていて、おもしろいと思うことがありますか」という質問の肯定割合が全学年80%以上あることから、成功体験を充実させて自己肯定感を高めていけるようにする。
- ・学んだことを使えば「解決できる」と思えるような課題を設定したり、「解決したい」と思えるような課題提示の仕方を工夫したりして、学習意欲が高めるようにしていく。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現や個に応じた指導法・指導体制の工夫においては、自分の考えをしっかりと持つために考える時間を確保して、一人一人が自信をもって発信できるようにする。また、対話的な学びで自分の考えを深められるよう視点を示して、さらに効果的な話し合いの方法を考えていく。
- ・基礎的・基本的な学習内容の定着のために、朝の学習の時間で、担任以外の職員と連携して、より効果的な時間となるよう取組を見直していく。
- ・家庭学習の充実と習慣化のために「進んで学習している」と感じられるよう、効果的な自主学習を家庭に発信したり、児童の実態に合った宿題を担任間で共有したりして、宿題を含めた家庭学習を充実させる。
- ・「家読」の時間を週末に設定したり、親子読書を推進したりして家庭での読書の習慣化を図る。